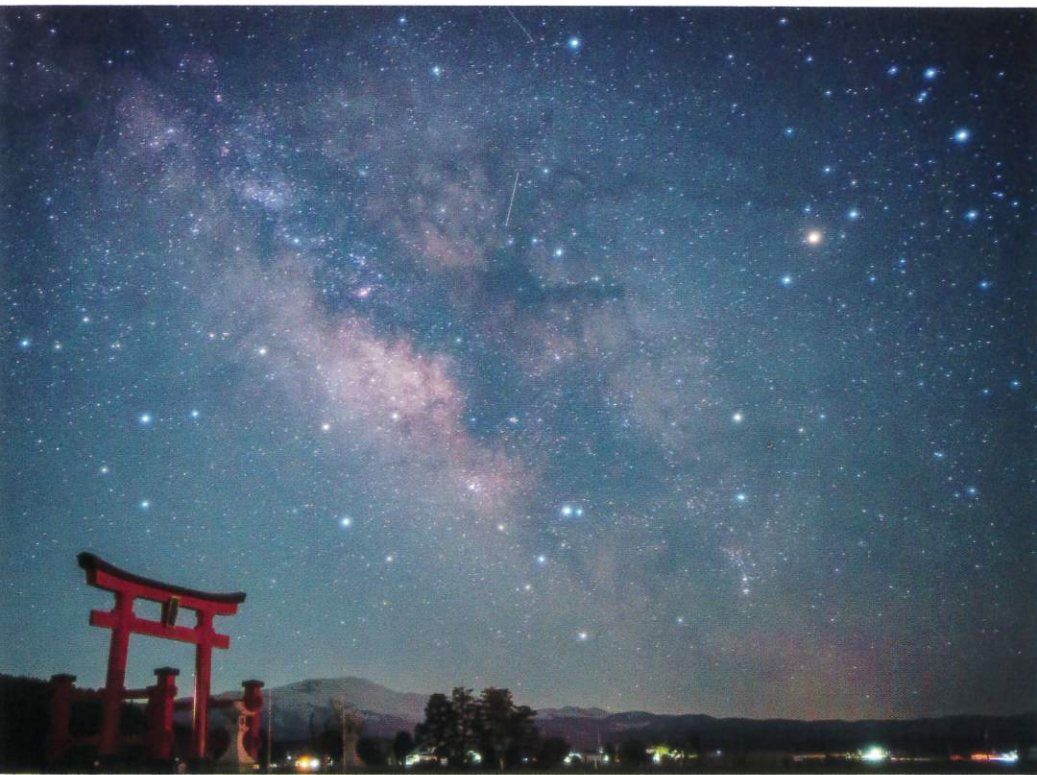




Mt. Haguro - Trial Access Fee Program

対象地域は、山岳信仰の聖地・羽黒山と
その門前町「手向地区」

山形県鶴岡市羽黒町に、古代から続く山岳信仰の聖地・羽黒山とその門前町「手向（とうげ）地区」があります。手向という名前は、神仏に祈りや捧げものをする＝手向（たむ）けるという行為に由来しているとされており、現在も山岳信仰の担い手・山伏の宿坊が軒を連ねています。近年、国際的な観光地としての羽黒山・手向地区の評価が高まっています。国の特別天然記念物である羽黒山の杉並木はミシュラン・グリーンガイドの三ツ星に。令和6（2024）年にはグリーンDESTINATIONS Top100ストーリーズに手向地区が選定されました。羽黒山や手向が「訪れるべき場所」として、世界的に注目されつつあります。



山伏の里を未来に

「羽黒山入域協力金」実証実験実施
お知らせとお願い

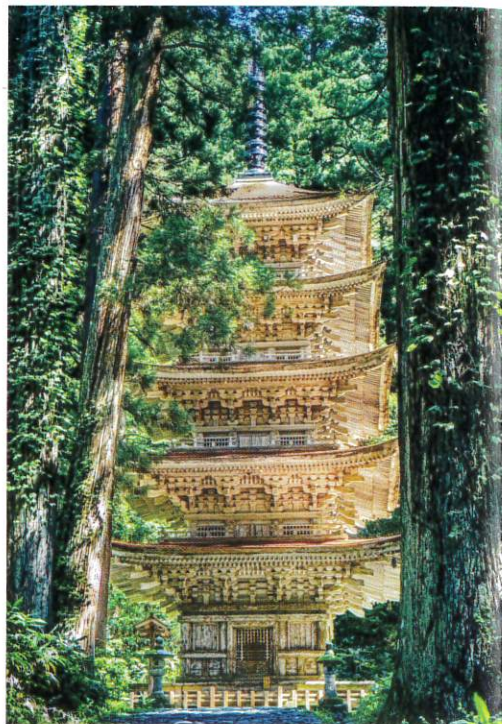


羽黒山と山伏の里の未来の為に、地域が誇る伝統文化や文化財などの文化資源を、継続的に維持し、また、伝統文化が地域の発展に寄与する為の仕組みとして検討されている、「羽黒山入域協力金」^{*}。そのより良い仕組みや、管理体制を検証・検討するための社会実験として『「羽黒山入域協力金」実証実験』を実施します。 ※実証実験の間の仮の名称になります。

手向地区では、地区住民が中心となり、地区の歴史や独自の文化を保全し、次代に継承するための財団法人の設立を目指し非営利型財団法人設立準備会が発足しました。『「羽黒山入域協力金」実証実験』は、この非営利型財団法人設立の目的に賛同した有志による「羽黒山入域協力金」実証実験実行委員会が実施するものです。

脚光の理由 「聖地である」こと

他方で、少子高齢化に伴い、減少傾向にある手向地区の人口は現在1300人に届きません。これに対して、羽黒山への年間参詣者数は60万人を超えるというデータがあります。実に人口比460倍もの訪問客を地区は受け入れているという計算です。このように多くの訪問客を受け入れている手向地区の「価値の源泉」は、手向地区が古代から現在まで、一貫して人々の祈りを受け入れてきた「聖地である」という点です。国内外から評価の高い杉並木などの自然景観や、国宝五重塔に代表される文化財の数々は、聖地としての羽黒山や手向地区の歴史や文化の象徴であり、手向地区で暮らす人々は四季折々の祭礼や年中行事の中で、こうした歴史や文化を守ってきました。



「責任ある観光」^も 私達が守るべき存在/ 地域全体の為に私達の出来る事

私達は羽黒山や手向地区を「単なる観光地」にすることなく、地区の歴史や文化、それらを支える地区住民の暮らしに思いを馳せ、それらを尊重・共感してくれる方々と手を携えて、日本を代表する山岳信仰の聖地である羽黒山や門前町の未来をつくっていきたく思います。本実証実験では皆様のお力を仰ぎ私たちの地域に最適な方法を共に考えていきたく思いますので、何卒皆様のご協力を賜りますよう、お願い致します。



実証実験 なぜ入域協力金なのか？

平成29(2017)年に出羽三山神社境内の埴山姫神社に杉の倒木が直撃し、また、令和6(2024)年の豪雨災害においては参道内の石段が崩落するという出来事がありました。

これらの出来事は、私達が、伝統を守り維持する為には、現代的な方法を取り入れ、現代的な状況とも向き合う事こそが必要であると再確認する契機となりました。

その代表的な方法が、今回、実証実験を行う「羽黒山入域協力金」です。

この仕組みは令和5(2023)年に鶴岡市にもサポート頂き設立した「羽黒山スギ並木とまちづくり協議会」内で話し合われているもので、文化や伝統のある地区の入域に関する仕組みは、世界遺産となった富士山周辺区域でも導入され、観光と文化を持続的に維持するものとして機能しています。



協力金の使い方

お預かりした協力金は、令和8(2026)年に設立される非営利型財団法人が管理し、山岳信仰の霊場出羽三山にまつわる歴史及び文化の継承と歴史的風致※の保全や、それらを活用したまちづくりの支援のために活かしていきます。

具体的には、有識者を含めた助成選考委員会の審査を経て次のような活動に対して助成を行います。

- ・国宝五重塔や重要文化財の黄金堂など、出羽三山の歴史や文化にまつわる文化財の維持・管理
- ・松例祭などの無形文化財の継承に関わる事業
- ・スギ並木の保全・管理
- ・手向宿坊街の修景整備、空き家対策に関わる事業
- ・手向宿坊街のにぎわいづくりに資する事業

※歴史まちづくり法で定義される「地域固有の歴史や伝統を反映した人々の活動と、その活動が行われる歴史的に価値の高い建造物やその周辺の市街地が一体となって形成してきた良好な市街地の環境」を目指します。



「羽黒山入域協力金」のご説明

古代からの歴史を持つ山岳信仰の聖地羽黒山とその門前町手向への入域に対し、
仮称「羽黒山入域協力金」のご協力をお願いします。
支払いは任意です。

【期間】

令和7(2025)年9月18日(木)～11月23日(日)※

※冬季期間において、オンライン決済での協力金のお支払いシステムを継続する案が検討されています。継続決定の際はホームページなどでお知らせ致します。

【受付場所】

- ・有人の協力金受付窓口を2か所設置します。
- ・山内には**オンライン支払いサイトのQRコード**を記載したポスターを掲示します。

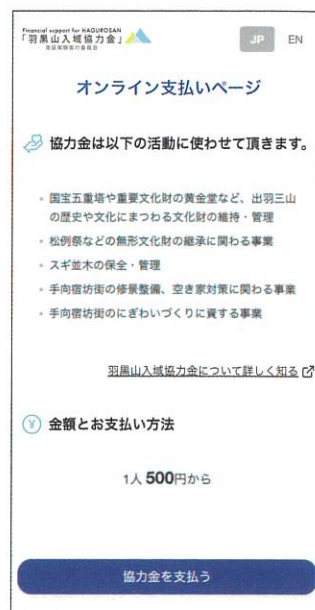
【支払い方法】

現金受付: 有人受付窓口では現金でお支払い頂けます。

オンラインでのキャッシュレス決済: 専用のオンラインサイトを通じて電子決済(キャッシュレス決済)がご利用いただけます。

右画像のような電子決済方式を検討しています。
(画面は制作段階のものです。実証実験期間に使用可能となります。)

オンライン支払いサイトはこちらから
※令和7年9月18日よりご使用になれます。



専用の「オンライン支払いサイト」

協力金の金額

1人500円からお支払いを受付けております。

- ・有人受付窓口では、500円以上であれば、**任意の金額**をお支払い頂けます。
※お支払いは500円単位となります。
- ・オンラインのキャッシュレス決済では、予め設定された500円から50,000円までの金額に加え、ご本人の意思により任意の金額を決定出来るような仕組みを検証します。

ご協力いただいた方には、**記念の葉**をご用意しております。

- ・記念品の引き換えは、有人の受付窓口で行っています。

実証実験では協力金をお支払い頂いた方に**アンケート**をお願いしております。

- ・現金でお支払い頂いた方には**アンケート用紙**をお渡しします。
※有人の受付窓口か出羽三山神社社務所までお持ち下さい。
- ・オンラインでキャッシュレス決済頂いた方は、そのまま**アンケートページ**へお進み下さい。

詳しくは HP をご参照下さい。



羽黒山入域協力金
実証実験サイト

協力金受付場所

次の2か所に有人の支払い受付窓口を設置します。



出羽三山神社 随神門付近



出羽三山神社山頂 手水舎付近

また、羽黒山内の各所には専用のオンライン支払いサイトのQRコードが記載されたポスターを掲示しますので併せてご利用ください。

※本取り組みにご賛同いただき、無人支払い用のQRコードが入ったポスターをご掲示頂ける方は
出羽三山神社社務所(0235-62-2355)または、contact@hagurosan.jpまでご一報ください。

「羽黒山入域協力金」実証実験実行委員会

発起人: 阿部良一(出羽三山神社)

協力: 出羽三山神社

座長: 天田顕徳(北海道大学)

出羽三山歴史博物館

事務局: 伊藤信(出羽三山神社 森林技監)

北海道大学天田顕徳研究室

